

特定技能向け新規コース立ち上げ支援における 特別教師研修

—初任日本語教師の変容に着目して—

森田衛・手島利恵・小山直美・安達浩子・河野充博・永井宏美・
レズキ ファジュリアンヌール・ラティ アウリア アンガルディアニ

1. はじめに

日本では、労働力不足を解消するために、2019年4月、新たな在留資格「特定技能」が創設された。この制度により、特に人手不足が深刻な表1の14分野において、一定の専門性と技能を持ち即戦力となる外国人を特定技能1号の資格で受け入れることが可能となった。特定技能は、技能等の移転による国際協力を目的とした技能実習制度と異なり、受け入れ機関ごとの人数枠に制限がなく（介護・建設を除く）、資格を取得した外国人は同一職種なら転職ができる。さらに、特定技能2号においては在留期間の更新回数に上限がなく、家族の帯同ができるなど、より安定的かつ長期的な労働力を担える制度となっている（出入国在留管理庁 2019、厚生労働省 2021）。

表1 特定技能の受け入れが可能な産業分野

特定技能1号	特定技能2号
①介護 ②ビルクリーニング ③素形材産業 ④産業機械製造業 ⑤電気・電子情報関連産業 ⑥建設 ⑦造船・船用工業 ⑧自動車整備 ⑨航空 ⑩宿泊 ⑪農業 ⑫漁業 ⑬飲食料品製造業 ⑭外食業	①建設 ②造船・船用工業

特定技能1号の在留資格で新規入国する際に求められる技能水準、日本語能力水準はいずれも試験等で確認されることになっており、技能実習2号を良好に修了したものは試験等が免除される。このうち、日本語能力水準については「生活や業務に必要な日本語能力」とされており、具体的には「日本語能力試験（以下、JLPT）N4以上」または「国際交流基金日本語基礎テスト（以下、JFT-Basic）合格」が求められている。

特定技能1号において、2019年から2023年までの受け入れ見込数（5年間の最大値）は34万5,150人とされている（出入国在留管理庁 2019）。これを受け、国際交流基金（以下、JF）は、一般の日本語学習者、初中等教育、大学日本語専攻などを中心とした一定の日本語運用能力をもった人材輩出に加えて、海外日本語教育のノウハウを活用し、民間日本語学校、送り出し機

関、高専・職業校、理系大学等の新たなニーズに対応した日本語教育を充実させ、日本語のできる外国人材の養成を目指している。現在、インドネシアのほかフィリピンやベトナムなど9か国において、①JFT-Basicの実施・普及、②新教材『いろどり 生活の日本語』⁽¹⁾ (国際交流基金 2020a) (以下、『いろどり』) 各国語版の翻訳及び日本語教育カリキュラム・教材の開発、③現地日本語教師の育成、④現地日本語教育活動の強化支援といった4つの具体的な取り組みが行われている。

JF ジャカルタ日本文化センター (以下、JFJA) では、「外国人材受入関連事業」としてこれらに取り組んでおり、それぞれ以下のような状況である。

①JFT-Basicの実施・普及

インドネシアにおけるJFT-Basicは、2019年10月に首都ジャカルタの会場で開始した。図1のグラフが示すとおり、当初の受験者数は340名だったが、以降、会場もジャカルタに加えスラバヤ、バンドン、メダン、ジョグジャカルタの5つの地域に増え、2021年5月～6月には、3,494名に受験者数が伸びている (国際交流基金 2021)。コロナ禍におけるJLPTの中止による影響もさることながら、広報活動の成果もありJFT-Basicへの関心が高まっていることがわかる。しかしながら、2020年3月以降、インドネシアにおけるコロナ禍は収束を迎えることなく、日本語教育の現場でも対面授業が難しい状況が続いている⁽²⁾。

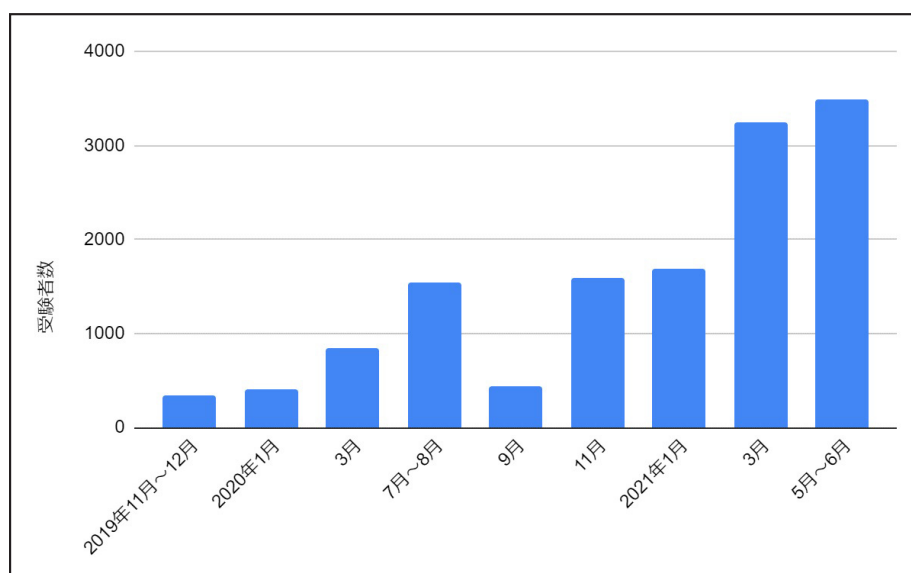


図1 インドネシアのJFT-Basic受験者数の推移

②『いろどり』各国語版の翻訳及び日本語教育カリキュラム・教材の開発

2020年に『いろどり』が公開されて以来、JFJAではインドネシア語版の翻訳をはじめ、日本文化や日本事情に関する教師用補助資料、音声ファイルを組み込んだ授業用PowerPoint (以下、PPT)、語彙クイズ、漢字クイズなどを作成し、それらを検証するため学習者対象の「い

ろどりコース」も実施した。2021年度には教師用「教え方のポイント」ビデオも作成している。

③現地日本語教師の育成

2018年度の海外日本語教育機関調査によると、インドネシアは世界で2番目に日本語学習者が多く、その数は709,479人に上る。しかし、その約92%を占めるのは中等教育機関の学習者で（国際交流基金 2020b）、特定技能などの外国人材養成には直結していない。これを踏まえ、JFJA 外国人材受入関連事業では、技能実習や特定技能の在留資格で日本に入国する者の多くが所属する職業訓練センター（LPK）や送り出し機関（SO）、専門高校（SMK）を主な支援対象とし、これらの機関の日本語教師への日本語教授法研修を実施してきた。また、JF 日本語国際センターの「特定技能制度による来日希望者のための日本語教授法研修」にも日本語教師を送り出している。これらの研修においても、2020年度と2021年度はコロナ禍の影響を受けて多くがオンラインで行われた。

④現地日本語教育活動の強化支援

③で挙げた機関などを対象に2019年度から教材購入助成と自由企画助成を行っている。2020年度は教材購入助成では47機関が、自由企画助成では『いろどり』に関連した動画教材作成を企画した2機関が採用された。2021年度はこのほか新しく ICT 環境整備助成も行っている。

JFJA では、これら外国人材受入関連事業をインドネシア国内に広げ重ねていくことにより、特定技能などの外国人材の養成、輩出を目指している。2021年3月末現在、特定技能1号の在留インドネシア人は1,921名で、産業分野別で人数が多いのは農業、飲食料品製造、産業機械製造の順となっている（出入国在留管理庁 2021）。

こうした中、新たな取り組みとして、これまで支援対象ではなかった大学（Universitas）や職業大学（Politeknik）で、特定技能の産業分野に関する学部があり、なおかつ日本語教育を行っていなかった機関に、特定技能向けの新規日本語コース立ち上げ支援を実施することになった。初年度はパイロット事業として実施することになり、支援機関は非公募により4機関を選んだ。選定にあたっては他のスキームで支援を実施している民間の送り出し機関等ではなく、より公益性の高い大学や職業大学を優先した。この4機関に対しては他の教育機関に優先して、生活日本語コーディネーター^③が窓口となり、オンラインミーティングやメッセージアプリを活用したコンサルティングを通じて、カリキュラム作成を支援してきた。これから本格的にコースが開講するなか、4機関の新規コースでは日本語授業を担当する教師のほとんどが日本語教授法を学んだ経験がなく、教授技能の向上が急務となっていた。そこで、JFJA が主催して基礎的な教授法の習得を目的とした研修を実施することになった。本稿では、この4機関を対象とした特別教師研修（以下、本研修）について報告する。

2. 研修の概要

特定技能向け新規コース立ち上げ機関を対象とした本研修は、近い将来設置される特定技能向け新規コースで効果的に日本語が教えられる技術を身につけることを目指して実施された。

表2は本研修の概要である。

表2 特別教師研修の概要

期間	2020年12月5日(土)～2021年3月6日(土)(計10回) 9:00～11:00(インドネシア西部時間) 各回2時間 別途事前課題、事後課題あり
対象機関	A 大学(南カリマンタン州) B 大学(東ジャワ州) C 職業大学(東ジャワ州) D 職業大学(ブンクル州)
研修受講者	7名(A 大学2名、B 大学1名、C 職業大学3名、D 職業大学1名)
目標	①『いろどり』の特徴をよく理解して授業で使えるようにすること ②『いろどり』とJF日本語教育スタンダードの関係について理解すること ③国際交流基金日本語基礎テスト(JFT-Basic)について理解すること ④よく使われる日本語教材やアプリについて理解すること
研修担当者	教務:インドネシア人専任講師3名、日本語専門家2名、生活日本語コーディネーター3名 事務:2名
使用ツール	Zoom、WhatsApp、YouTube
修了要件	出席率70%以上、課題をすべて提出した者
参加費用	無料(研修受講者には研修受講時20時間+事前・事後課題20時間、合計40時間分のインターネット接続費用を補助)

2.1 研修デザイン

研修受講者(以下、受講者)はこれまで文法積み上げ式の授業を受けて日本語を習得し、日本語を教える際にも同じく文法シラバスに沿って日本語を教えてきた。そのため目標に挙げた、①の『いろどり』を使って授業をするためには、②に挙げたその背景にあるJF日本語教育スタンダードの考え方を理解する必要がある。また特定技能の在留資格を取得するためには、③のJFT-Basicに関する知識は必須であり、研修終了後に受講者が自律的な姿勢で授業を担当するためには、④のJFJAが寄贈した参考図書や学習を促すアプリについても紹介しておく必要があると考えた。

対象機関は4機関で、カリマンタン島南カリマンタン州1機関、ジャワ島東ジャワ州2機関、スマトラ島ブンクル州1機関である。受講者は7名だった。JFJAから各機関に3名ずつ受講者の推薦を依頼したが、適任者が見つからない機関は1名～2名が参加した。受講者の日本語教授歴は平均1年2か月(最長4年、最短45日)で、多くが経験の浅い初任日本語教師であった。研修担当者は日本語専門家2名、生活日本語コーディネーター3名、専任講師3名の教務スタッフが分担して行った。受講者による模擬授業では、事務スタッフ2名も学習者役として参加した。参加費用は無料にした。現地のインターネット事情を考慮して、受講者が安定して

インターネットに接続できるように40時間分のデータ容量を JFJA が購入して配付した。

本研修はすべてオンライン形式で実施し、研修担当者と受講者が同じ時間に行う同期型と受講者の好きな時間に課題を行う非同期型を組み合わせるブレンディッド型とした。講義や模擬授業を実施する同期型の研修時には Zoom を使用し、事前・事後課題の共有には WhatsApp、授業動画の配信は YouTube を使用した。そして、Quizizz 等を利用して作成したオンライン教材は、『いろどり』インドネシア語版サイト等を通じて公開した。また、WhatsApp 上に研修担当者と受講者が参加するチャットグループを作成して、連絡や情報交換を行った。研修は受講者の都合を考慮して、平日と土曜日に行った。どの機関も受講者の研修への参加に協力的で、スケジュールの面でも研修に参加しやすいように配慮していた。

2.2 受講者による模擬授業について

本研修では、受講者による模擬授業を一人40分ずつ、2回実施した。2回実施した理由は、1回目は教案を作って『いろどり』を使った授業を体験することを主目的としたからであり、振り返りで出た自己評価や学習者役の他の受講者や研修担当者からのコメントを参考にして、2回目の授業に備えた。模擬授業の機会を2回以上設けることにより教授体験の場を多く提供し、受講者の成長を促すねらいがある。

模擬授業を行う前には受講者が学習者役になり、生活日本語コーディネーターによる『いろどり』を使ったモデル授業を行った。これまでに送り出し機関等を対象に実施した教師研修では、先に模擬授業を行ってからモデル授業を行ったこともあったが、逆に今回のように先にモデル授業を行ってから模擬授業を行ったこともあった。前者はどのように授業を行ったらいいか具体的な指針がないために受講者は苦勞するが、その分、後でモデル授業を受けたときに、授業で心掛けるべきポイントが頭に残りやすい。後者は先にモデル授業を受けてから授業準備をするので授業のイメージがしやすいが、反面、主体的に授業を組み立てるという視点が失われるため、モデル授業をそのまま模倣した授業になりやすい。今回は教授経験が少ない教師を対象としていることから、『いろどり』を使った授業の型を身につけてもらうため後者の方式を採用した。

2.3 各回の研修内容について

本研修では前述のとおり、受講者による模擬授業を大切に考えた。自ら模擬授業を行うだけでなく、他の受講者からさまざまなフィードバックを受けて、自分の授業を改善する能力を養成することを意識した。研修中は毎回事前課題や事後課題を課した。表3に各回の研修内容を記す。

表3 各回の研修内容

	事前課題 (非同期)	主な内容 (同期)
1日目	関連パンフレットを読んできると	開講式 JFT-Basic の概要と JF 日本語教育スタンダードの説明
2日目	『いろどり』教材分析	『いろどり』の特徴を説明 モデル授業① 聞く活動
3日目	モデル授業のビデオ視聴	モデル授業② 話す活動、振り返り
4日目	モデル授業のビデオ視聴	モデル授業③ 書く活動、振り返り
5日目	教案作成 (該当者)	模擬授業①、振り返り
6日目	教案作成 (該当者) 授業ビデオ視聴	模擬授業②、振り返り
7日目	教案作成 (該当者) 授業ビデオ視聴	模擬授業③、振り返り
8日目	教案作成 (該当者) 授業ビデオ視聴	模擬授業④、振り返り
9日目	e ラーニング教材を見てくる	オンライン授業の留意点 『みんなの日本語』を使った活動 e ラーニング教材の活用法
10日目	該当する教材を見てくる	JFJA 作成『いろどり』関連オンライン教材の活用法 寄贈教材の活用法

1日目は受講者に受講の前提となる基本的な知識をインプットするために、JFT-Basic の概要と JF 日本語教育スタンダードの説明を行った。JFT-Basic の概要では JLPT との違いにも触れ、制度面については事務スタッフから、問題傾向については教務スタッフからそれぞれ説明した。2日目から4日目までは受講者に『いろどり』を知ってもらう時間とした。教材の特徴の説明をした後、初級1第2課「ゲームをするのが好きです」を使って、生活日本語コーディネーターによるモデル授業を受講者が学習者役になって実施した。授業の後、振り返りを行い、授業のねらいや進め方について具体的な方法を話し合った。5日目から8日目までは、入門第5課「うどんが好きです」と第6課「チーズバーガーください」を使って受講者による模擬授業を実施した。模擬授業は受講者が2つのグループに分かれ、それぞれのブレイクアウトルームの中で行った。5日目から8日目までの4回の研修の中で、全ての受講者が2回もしくは3回教師役をした。教師役のときは自分で教案を書き、授業で使うPPTを作成した上で、40分ずつ授業を体験した。当日模擬授業をしない受講者と研修担当者が学習者役になった。9日目はこれまでの模擬授業を振り返ってオンライン授業をする際の留意点に触れた後、『いろどり』とインドネシアでよく使われている『みんなの日本語』を授業で併用するための工夫について取り上げた。具体的には、先に『みんなの日本語』で文法導入をしてから、『いろどり』を使って聞き取りや会話の練習を行うというもので、『いろどり』の豊富な音声データを生かした使い方を提示した。そして、授業の予習や復習にも活用できるツールとして日本語

eラーニングサイト「みなと」や「まるごと+」を紹介した。10日目はJFJAが作成した『いろどり』関連教材（音声データを埋め込みそのまま授業で使えるPPT）（図2）、漢字学習、語彙学習のためのクイズサイト、文化紹介「日本の生活TIPS+」（図3）と寄贈教材の活用法を紹介した。

2 **かいわき** **会話を聞きましょう。**
Simaklah percakapan berikut ini!

▶ **しゆみ** **趣味**について、7人の人が話しています。
Tujuh orang berikut berbicara mengenai hobi mereka.

1 **ことばの準備**
Persiapan kata.

【趣味】

a. 映画を見る
b. 音楽を聞く
c. 本を読む
d. おいしいものを
e. 写真を撮る
f. ピアノ/ギターを弾く
g. おしゃべりする
h. 料理をする
i. 旅行をする
j. テニスをする
k. ゲームをする
l. 寝る

(1) **しゆみ** **趣味**や好きなことは何ですか。1のa-lから**えら**びましょう。
Apakah hobi atau hal yang mereka sukai? Pilihlah jawaban dari a-l bagian 1.

1	2	3	4	5	6	7
02-03	02-04	02-05	02-06	02-07	02-08	02-09

図2 音声データを埋め込んだ授業用PPT（『いろどり』インドネシア語版より）

JAPAN FOUNDATION
国際交流基金

日本の生活
TIPS+
Nihon no Seikatsu
TIPS+
初級1
Tingkat Dasar 1

Nihon no Seikatsu TIPS+ Tingkat Dasar 1 Bab 10

公民館 Balai Kegiatan Publik

Balai kegiatan publik adalah tempat orang-orang di wilayah itu untuk berkumpul dan belajar bersama serta membangun jejaring. Di balai kegiatan publik yang besar, setiap hari ada berbagai macam aktivitas, seperti aktivitas dukungan pendidikan anak, kegiatan tempat anak-anak belajar permainan zaman dulu dari para lansia, juga latihan senam. Banyak juga balai kegiatan publik yang menyelenggarakan kelas pembelajaran bahasa Jepang. Di sana juga dilengkapi dengan dapur dan ruang tamu, karena itu ada juga balai kegiatan publik yang membuka kelas memasak dan kelas penulisan kaligrafi Jepang (*shodo*). Perpustakaan pun tersedia. Balai kegiatan publik adalah fasilitas umum, sehingga di sana kita dapat memperoleh informasi yang diperlukan untuk kehidupan sehari-hari. Banyak juga yang mengungsi ke balai kegiatan publik ketika terjadi bencana, seperti gempa bumi atau badai taifun. Balai kegiatan publik memiliki pegawai, silakan bertanya ke sana apabila mengalami kesulitan atau menghadapi sesuatu yang tidak dipahami.

- Gambaran ceramah yang diselenggarakan di kota Malang, yang berisi mengenai balai kegiatan publik di Jepang. (Bahasa Indonesia)
<https://malangkota.go.id/2015/09/23/pls-um-belajar-sukses-dari-jepang/>
- Kementerian Ilmu Pengetahuan dan Kebudayaan: Materi balai kegiatan publik yang dikeluarkan oleh Kementerian Ilmu Pengetahuan dan Kebudayaan. (Bahasa Inggris)
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1284462_1_2.pdf

図3 「日本の生活TIPS+」の表紙と内容（例）

2.4 研修の工夫

模擬授業は毎回2人の受講者が担当した。一人当たりの授業時間は40分と決めたが、それぞれがどの部分を担当するかについては、授業を担当する受講者どうしで話し合っ決めてもらった。授業自体は一人でするものの、だれがどこまで担当するかを受講者の話し合いで決めることによって、現場でチームティーチングをする場合のコミュニケーション力形成にも意識が向けられるのではと考えた。

また、受講者が模擬授業を準備する際の参考にするため、生活日本語コーディネーターによるモデル授業を録画しておき、受講者にはYouTubeを通じて共有した。受講者による模擬授業も同様に録画しておき、振り返りのコメントとともに研修期間中、受講者が自由に見られるようにしておいた。これによって、自分の授業の動画を見て振り返ることが容易となるだけでなく、もう一方のグループの模擬授業の動画を見ることで、同じ課であっても教師によって教え方に違いがあることに気が付くと考えた。

3. 研修の成果

本研修の成果について、目標に掲げた「①『いろどり』の特徴をよく理解して授業で使えるようにすること」がどの程度達成されたか、次の2つの資料から考察を試みる。

- ・ 終了時アンケート
- ・ 終了時アンケートに関するインタビュー

3.1 終了時アンケートの結果と分析

終了時のアンケートを表4に示す。アンケートは、まず選択式の質問に回答して、その理由を記述式で尋ねる形式とした。

表4 終了時アンケート 質問 (一部)

1	全体を振り返ってみて、研修はどうでしたか。Setelah melakukan evaluasi secara keseluruhan, bagaimanakah tanggapan Anda mengenai pelatihan ini?
1-2	どうしてそう思いましたか。 Tuliskan alasannya.
2	模擬授業はいい経験になりましたか。 Apakah simulasi pembelajaran menjadi pengalaman baik bagi Anda?
2-2	どうしてそう思いましたか。 Tuliskan alasannya.
3	模擬授業で難しいところがありましたか。 Apakah ada kesulitan saat melakukan simulasi pembelajaran?
3-2	どうしてそう思いましたか。 Tuliskan alasannya.

表5 研修全体の満足度

合計	5 とても満足	4 満足	3 普通	2 やや不満	1 とても不満
7名	7名	0名	0名	0名	0名

表5は研修全体の満足度を示している。研修全体に対する評価は7人全員が5段階で最も高い『とても満足』と回答した（以下、回答の原文はインドネシア語）。その理由として、研修を通じて「多くの学びがあった」、「教材や資料の使い方がわかった」、「自分の足りないところがわかった」等が書かれていた。同様に模擬授業の実施についても、7人全員が5段階のうち最も評価の高い『とてもよかった』と回答した。その理由として、「新しい経験だった」、「建設的なフィードバックやアドバイスをもらい、他の受講者がどのように教えているかを見ることで多くの学びがあった」、「教える際の自分の長所と短所をより意識するようになったことで、以前よりも指導力が上がった」等が書かれていた。模擬授業で難しいと感じたところについては、PPT作成等の授業準備や授業の時間配分、インターネット接続の不安定さを挙げる回答があった。

3.2 終了時アンケートに関するインタビューの結果と分析

研修が終わってからも、生活日本語コーディネーターが中心となり、各受講者の授業見学やコンサルティングを通じて定期的にフォローアップを実施した。研修終了後4か月が経過して、研修の成果がどのように表れているかを知るためにフォローアップインタビューを全員に実施し、その中で終了時アンケートに記述した内容について詳しく話を聞いた。インタビューは半構造化インタビューの形式を用いてインドネシア語と日本語を使って質問し、主にインドネシア語で回答を得た。インタビューの時間は1人当たり1時間から1時間半程度であった。

図4では終了時アンケートから各受講者が研修を通じて受けた影響を抽出し、さらにインタビューで深掘りしたものを4つの段階（研修開始前、模擬授業1回目、模擬授業2回目、研修受講後）に分けて受講者の心理的变化をまとめた。受講者は最初から本人の意思で応募したのではなく、各機関からの推薦で受講することになったという経緯もあり、研修開始前は教授経験が少ないことや、本格的な教師研修を初めて受講することへの不安が大きかったと話していた。研修が始まり、教務スタッフによるモデル授業を受けると、受講者はこれまで経験したことのない学習者を中心に置いた授業に対して戸惑いを見せた。1回目の模擬授業では、「仕事の合間を見て模擬授業のPPTを準備していたが、授業が始まる30分前までPPTを修正していた」、「学習者の反応がないとき、どうしたらいいのか」、「日本人の前で授業をするのは初めてだったので大変だった」という切実な声や、「実は緊張して休み時間になると何度もトイレに行っていた」という話も聞かれた。しかし模擬授業が終わり、学習者役の他の受講者や研修

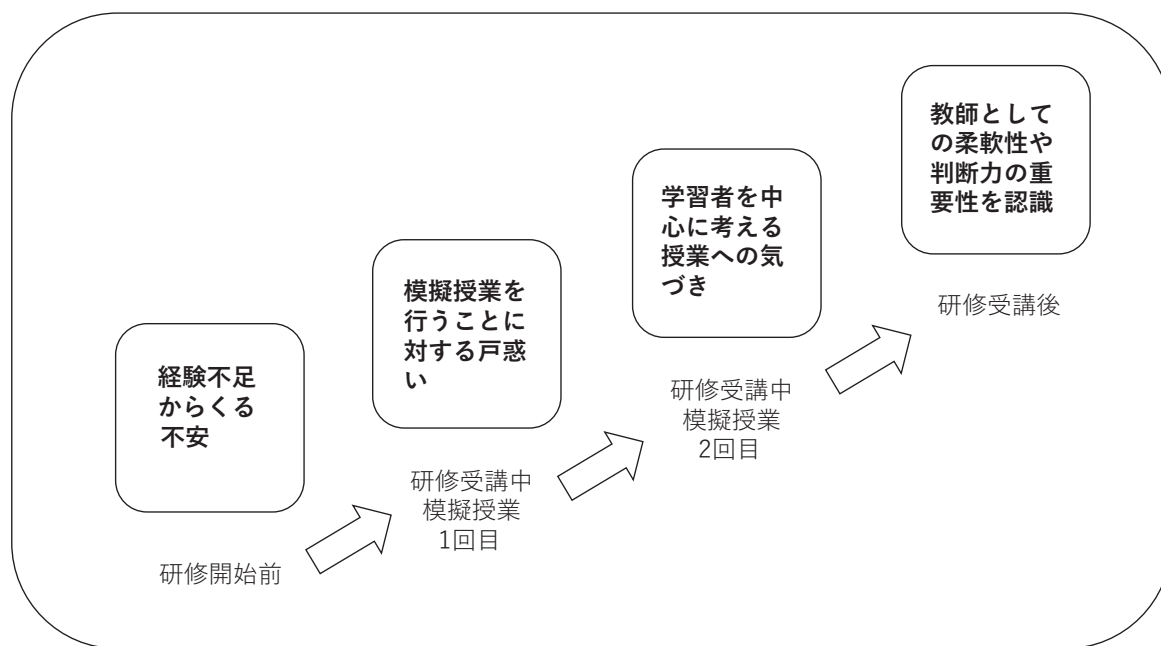


図4 受講者の心理的变化

担当者からフィードバックやアドバイスが得られると、当初感じていた戸惑いが解消されていった。前述のとおり、自分や他の教師の授業動画を見て臨んだ2回目の模擬授業は、どの受講者も初回とは見違えるほど授業が改善されていた。指摘を受けたところを修正し、特に授業準備の段階から学習者を意識して、授業中は学習者に考えさせる授業を展開していた。「授業が先生中心から学習者中心に変わった。学習者に考えさせるのがポイント」という意見や、積極的ではない学習者に対する対応として、「すぐに指名しないで、よく話す人とペアにしたり、指名しても簡単な質問から始めて自信をつけさせたりする」という技術に気が付く受講者の言葉があった。そして、「自分の引き出しが増えた」「アイデアが増えた」「自分のいいところがあった」という肯定的な感想も聞かれるようになったことから、学習者を中心に考える授業への気づきが授業の質的变化を促したと考えられる。研修受講後は、学習者に合わせて授業ができる教師としての柔軟性やその基盤となる判断力を身につけて、さらに成長しようとする姿がインタビューを通じて伝わってきた。「学習者と双方向のやり取りをするようになった」「良いファシリテーターになりたい」、さらに「評価の仕方を知りたい。何をどう測ればいいのか、数値だけではなくて達成度はどうやって測るのか」といった、学習者を中心とした授業をどのように組み立てていくかという視点に立って具体的な目標を話す姿が見られるようになった。

4. まとめと今後の展望

本研修では、特に受講者による模擬授業を大切に考えた。自ら模擬授業を行うだけでなく、他の参加者からさまざまなフィードバックを受けて、自分の授業を改善する能力を養成することを意図していたからである。どの受講者からも各機関の期待を背負って参加しているという使命感が感じられ、真剣に研修に取り組んでいる姿が印象に残った。

反省点として、全体を通じて研修時間が十分とは言えなかった点が挙げられる。オンラインは対面よりも時間がかかる傾向にあることから、余裕をもってスケジュールを組み立てたが、それでも予定していた研修時間では収まらなかった。特に、模擬授業後のフィードバックの際に、研修担当者や授業を受けた人から多くのコメントが出され、それに対して受講者が自分の考えを述べると、事前に想定していた時間を超過してしまうことがたびたびあった。模擬授業を実施した回は、1回あたりの研修時間をあと1時間ほど長くしてもよかったかもしれない。

モデル授業については、模擬授業の前に生活日本語コーディネーター3名がモデル授業を実施したのが効果的だった。教科書の使い方が3名それぞれに異なっていて、受講者が模擬授業を準備する際のよい参考になった。モデル授業は時間の制約があり一部だけを抜粋して行うことがあるが、特に経験の浅い教師向けの研修では、今回のように一課すべてを扱った方が授業の流れがわかるのでよいと感じた。一方で、受講者による模擬授業は持ち時間の40分をどう使うかが課題になった。持ち時間内に担当部分が終わらない場合、どの部分に焦点を当てるか事前に伝えておいた方が受講者の混乱が少なかったと思われるが、本研修では受講者どうして話し合っただけで担当範囲を分担し教案を作成することに意義を見出していたため、研修担当者からは積極的な介入を見合わせた。ただし、受講者から相談があったときには積極的に応じた。そのため、時間の制約があり重要ではない部分を省略してもいい、という指示が一部の受講者には徹底しなかった。これを防ぐためには、時間の制約がある中で行う模擬授業の進め方を予め撮影し、YouTube等を利用して受講者が自由に見られるようにしておくのが良いと思われる。今回は研修のすべてを録画して受講者に公開したが、受講者が模擬授業をする前にモデル授業を見て準備したり、違うグループの模擬授業を見て自分に足りないところを見つけたりするなど効果的に活用されていた。受講者の意欲を高めるには研修担当者からの働きかけが不可欠であるが、受講者も自分の模擬授業の動画を他のグループに共有することに理解を示し、他の受講者から学ぼうとする姿勢が目を見せた。本研修を通じて、オンライン上でも互いに学び合う関係が構築されてきたことが示唆される。

今回、3カ月にわたって、全10回合計20時間の研修をすべてオンラインで実施した。受講者だけでなく研修担当者にとっても、これほど長いオンライン研修を実施するのは初めての経験だったことから、開始前は不安の声も挙がっていたが、回を増すごとに受講者が活発に発言するようになり、手ごたえが感じられるようになってきた。本研修で得たオンライン研修のノウ

ハウは、さっそく中等教育や高等教育の教師を対象にした他の研修でも活用しており、本研修は研修担当者にとっても学びが多かったと言える。

〔注〕

- ⁽¹⁾ 2020年3月にJFがウェブ上で公開した日本語教材。特定技能などで来日する外国人が日本で生活や仕事をする際に必要となる、基礎的な日本語のコミュニケーション力(A2レベル)を身につけることが目的となっている。
- ⁽²⁾ 2021年11月15日現在、インドネシア政府による活動制限のレベルはピーク時より下がっている。しかしながら、教育・学習面では、依然として収容率50%の制限付き対面学習及び遠隔学習に制限されている(在インドネシア日本国大使館 2021)。
- ⁽³⁾ JFでは、日本語専門家や現地スタッフと協力して特定技能関連の日本語事業やJFT-Basicの広報活動を行う「生活日本語コーディネーター」をインドネシア、フィリピン、ベトナムなど9か国に派遣している。

〔参考文献〕

- 厚生労働省 (2021) 「外国人技能実習制度について」
<<https://www.mhlw.go.jp/content/000752687.pdf>> (2021年8月23日)
- 国際交流基金 (2021) 「日本語基礎テスト テスト実施報告」
<<https://www.jpf.go.jp/jft-basic/report/index.html>> (2021年8月23日)
- 国際交流基金 (2020a) 『いろいろ 生活の日本語』
<<https://www.irodori.jpf.go.jp/>> (2021年8月23日)
- 国際交流基金 (2020b) 「海外の日本語教育の現状 2018年度日本語教育機関調査より」
<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey2018/all.pdf>> (2021年8月23日)
- 国際交流基金ジャカルタ日本文化センター 「『いろいろ 生活の日本語』 インドネシア語版」
<http://bit.ly/irodori_id> (2021年8月23日)
- 在インドネシア日本国大使館 「2021年11月3日付 インドネシア政府によるジャワ・バリでの活動制限の延長(内務大臣指示の発出)」<https://www.id.emb-japan.go.jp/oshirase21_205.html> (2021年11月15日)
- 出入国在留管理庁 (2019) 「新たな外国人材の受入れ及び共生社会実現に向けた取組」
<<https://www.moj.go.jp/isa/content/001335263.pdf>> (2021年8月23日)
- 出入国在留管理庁 (2021) 「特定技能1号在留外国人数 令和3年3月末 概要版」
<<https://www.moj.go.jp/isa/content/001348990.pdf>> (2021年8月23日)